

# 各学部における教育研究上の目的

## 【人文社会科学部】

---

### 人文社会科学部規則（抄）

（人材育成に関する目的）

第1条の2 本学部は、人文・社会科学の各分野の専門的知識・能力を身につけるとともに、国際的な視野と幅広い教養を備え、社会の発展に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

### 教育目的

人文社会科学部は、「国立大学法人静岡大学の中期目標」に定める大学の基本的な目標及び教育に関する目標を踏まえ、21世紀人類社会の課題である世界の平和、人類の福祉と社会の持続的発展に資するよう、人文・社会科学の専門的知識・学際的総合力と市民的教養、国際社会への対応力、実践的応用力を身につけ、地域社会において中核的な主体となるよう、「公共性」を備えた多彩な市民の育成を教育目的とする。

### 研究目的

人文社会科学部は、「国立大学法人静岡大学の中期目標」に定める大学の基本的な目標及び研究に関する目標を踏まえ、人文・社会科学の広範な分野の研究において、次のような基本的目的を定めている。「静岡大学人文社会科学部学術憲章」（1）基礎学の意義を適切に評価しつつ、個別分野ごとの研究を発展させると共に、多様な専門分野の力を結集して分野融合的研究を展開し、両者が補完的に発展していくようにすること。（2）グローバル化が進む現代において、社会・文化・経済・科学技術・医療等の側面で生じる国際的な課題に多方面から学際的にアプローチし、人類社会の持続可能な発展に貢献すること。（3）地域社会との連携・応答によって、新たな質の研究課題を設定し、社会に具体的に貢献できる研究を重視すること。（4）未来に向けて現代の諸課題に取り組むために、過去の知的遺産を踏まえて、新たな知の創造を目指すこと。

## 【教育学部】

---

### 教育学部規則（抄）

（人材の育成に関する目的）

第1条の2 本学部は、豊かな人間性と幅広く深い教養を基礎として、子どもをよく理解し、教科指導等の分野において高い専門性と実践的な指導力を備えた教員、教育の現代的課題に対応することができる教員、教職生活全般を通じて学び続けることができる教員を育成することを目的とする。

### 教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

教育学部は、以上の本学の基本的目標を踏まえ、「豊かな人間性と幅広い教養を基礎として、子どもをよく理解し、各教科・領域においてわかりやすい授業のできる教員、子どもの全人的成長を助けるために学び続ける教員」の育成を目的としている。

### 研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として、「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

教育学部は、以上の本学の基本的目標を踏まえ、学校教育・社会教育・科学教育等に関連する各専門分野において、以下の成果の創出を目的とする。

- （1） 幼稚園から小・中・高等学校、特別支援学校等を含む幅広い学校種及び多様な教科を対象とする教育方法、教育内容、生徒指導等に関するもので、学校における具体的な教育実践の指針となるような研究
- （2） 学校教育・社会教育・科学教育等で扱われている教育内容の学問的背景となっている各専門分野の最新の研究成果を踏まえ、それをさらに発展させるような研究
- （3） 学校教育・社会教育・科学教育等を取り巻く様々な社会的・文化的活動の学問的基盤となるような研究

## 【情報学部】

---

### 情報学部規則（抄）

（教育研究上の目的）

第1条の2 本学部は、人間の営みと情報技術が調和した豊かな社会の実現を目指す情報学の教育研究を推進し、21世紀の情報社会で先導的役割を果たす深い教養と豊かな専門知識及び高度な実践力を有する人材を育成することを目的とする。

### 教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

情報学部は、上記の本学の基本的目標を踏まえつつ、急速な情報化の進展の中で人間と情報技術が共生する豊かな情報社会の実現を21世紀の課題として位置づける。教育の基本方針には情報学の分野において理工系と文系の連携と融合を掲げ、「幅広い教養を背景に、情報科学と情報社会についての豊かな知識と国際感覚を備え、情報モラル及び高度な情報技術、情報マネジメント、情報社会の分析・企画・立案能力を身に付けた人材」を育成することを目的とする。

### 研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として、「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

情報学部は、以上の本学の基本的目標を踏まえ、コンピュータネットワークを中核とする急速な情報化の進展の中で、人間と情報技術が共生する豊かな情報社会の実現を、21世紀の課題として位置づける。そして、理工系の情報科学・情報工学とさまざまな文系の学問の融合をさせることで、「情報学」という新しい学問体系を創造することを目的とする。

この目的を達成することで、以下の研究成果の創出を目指している。

- （1） 情報を切り口とした人間や社会のあり方の解明
- （2） 情報と人間・社会のインタラクションの解明
- （3） 情報を活用する技術・方法の基礎的過程の解明
- （4） 情報活用技術・方法の開発
- （5） 情報活用技術・方法を基にした人間社会システムのあり方の提案

## 【理 学 部】

---

### 理学部規則（抄）

（目的）

第1条の2 本学部は、理学の各専門分野において確かな基礎学力をもつと同時に、幅広い教養を身につけた研究者、技術者、教育者等として社会に貢献できる人材育成を目的とするほか、第2条の2に規定する創造理学（グローバル人材育成）コースでは専門分野の基礎知識のほか、英語による情報収集と自ら発信する国際感覚を持ち、修得した知識及び技術を社会に活かし、活躍できる人材の育成を目的とする。

### 【理学部の理念】

自然の真理の解明という人類共通の夢に向けて、その探求に情熱を傾け、幅広い分野における科学の進展と応用を目指して教育と研究を進めること。さらにそれによって人類の幸せに寄与すること。これが私たち理学部の理念である。

### 教育の目的

理学の各専門分野において確かな基礎学力をもつと同時に、幅広い教養と豊かな人間性を身につけた社会に貢献できる人材の育成を目的としている。

### 教育の目標

研究者・技術者・教育者などとして有為な人材を育むことを目標に、以下の取り組みを行っている。

- ・多様な基礎学問体系の専門教育および幅広い教養教育の実施
- ・学生の個性・自主性の尊重
- ・充実した学生生活を目指した個人対応教育の実施
- ・大学院への進学を視野に入れた高度な専門教育の推奨
- ・学生の意見の授業へのフィードバック
- ・指導教員制と学生相談室による心のケア
- ・進路相談・資格取得・インターンシップ制度等によるキャリアアップ支援
- ・国際性豊かな人材育成を目指した環境整備
- ・高等学校、中学校教員や学芸員になるための課程整備や放射線安全教育の実施

### 研究の目的

科学的真理を知的好奇心から探求すること、その基礎概念の確立を進めること、さらに、自然および生活環境保全や先端技術開発等の応用分野に基礎的情報をもたらすことを目的としている。また、このような研究を行うことで、次の時代の科学・技術およびその教育を担う人材を育成することも大切な目的である。

### 研究の目標

世界をリードする独創的研究の推進を目標にして、総合科学技術研究科および創造科学技術大学院を中心にした先端的基礎研究を展開している。また、学科間、学部間、さら

に地域・他機関との連携による学際的研究や、環境保全・技術開発に係る応用研究を行っている。

## 【工 学 部】

---

### 工学部規則（抄）

（目的）

第1条の2 本学部は、豊かな教養と感性を育む教養教育及びものづくりを基盤とし実学を重視した専門教育を通じて人材を育成することを教育の目的とし、地域社会・産業と連携して、工学及び技術の中核とした研究開発を推進することを研究の目的とする。

### 教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

工学部は、以上の本学の基本的目標を踏まえ、工学の分野において「ものづくり」を基盤とした実学重視の教育を基本方針とし、人類の豊かな未来の発展に貢献することを目指している。具体的には教養教育・専門教育を通じて「実体験が豊富で、基礎学力と実践英語力を備えた工業技術者を育成し、製造業および関連するサービス業等の企業で国際的に活躍できる人材を育成する」ことを目的としている。

### 研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として、「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

工学部は、本学の基本的目標を踏まえ、人類の豊かな未来を高度な科学技術によって切り拓くことを21世紀の課題として位置付け、工学の分野で、知の源泉となり世界をリードする創造的な基盤研究を推進すること、時代の要請に応える科学技術の発展に寄与すること、地域とともに世界へはばたく研究を行い地域の産業育成に貢献すること、環境共生に関連する領域に取り組むことを基本方針として、以下の研究成果の創出を目的とする。

- （1）工学及び学際領域における独創的研究
- （2）地域における「ものづくり」産業の育成を支援する新技術の創出
- （3）環境問題解決への工学的寄与

## 【農 学 部】

---

### 農学部規則（抄）

（目的、使命）

第1条の2 本学部では、人間社会と直結したフィールド科学と基礎科学を修得し、農学の幅広い専門分野を俯瞰でき、かつ相応の専門性を有するとともに人間と自然の共存する循環型社会の構築を目指し、地域活性化への貢献とグローバル社会に適応できる総合力を備えた人材の育成を目的とする。

### 教育目的

静岡大学は、中期目標において、教育に関する基本的目標として、「デジタル化やグローバル化の進展、Society5.0の到来といった社会の潮流を踏まえ、総合大学としての優位性を発揮した人材育成の取組を進める」ことを掲げている。

農学部は、以上の本学の基本的目標を踏まえ、人間社会と直結したフィールド科学と基礎科学を修得し、農学の幅広い専門分野を俯瞰でき、かつ、相応の専門性を有するとともに人間と自然の共存する循環型社会の構築を目指し、地域活性化への貢献とグローバル社会に適応できる総合力を備えた人材の育成をその教育目的とする。

### 研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として、「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

農学部は、以上の基本的目標を踏まえ、富士山から駿河湾に至る豊穡な風土を背景とする静岡県において、「農業生産技術の開発」、「生物機能の解明」、「森林を含む生物資源の利用」、「農林生態系と地域環境の保全」など、生物科学と環境科学を融合した農学を考究し、地域農林業と地域社会の維持・発展を目指す一方、人間と自然が共存する循環型社会の構築を21世紀のグローバルな課題として位置づけ、農学の諸分野における学理や技術を深化させることを基本方針として、以下の成果の創出を研究目的とする。

- （1）農作物及び森林等の生物資源の生産性向上及び有効活用、高付加価値化に向けた技術開発
- （2）地域生態系及び自然環境の保全と生物生産の両立を図る技術・システム開発
- （3）農林業などの生物生産活動・流通・消費を支える地域社会の持続的発展にかかる技術・システム開発
- （4）人類の生活の質的向上への貢献を目標とする生命現象を利用した独創的な新技術及び食料とエネルギーの持続的な供給システム等の開発
- （5）農学の諸分野及び周辺に関連分野の研究成果を融合することによるイノベーションの創出

## 【グローバル共創科学部】

### グローバル共創科学部規則（抄）

（目的）

第2条 本学部は、地球規模の課題から地域社会の課題に至るまで、社会的課題が多様化・複雑化する現代社会の状況を踏まえ、多様な人々と協働し、人文・社会科学から自然科学に至る幅広い知をつなげることを通じて、複眼的な視点から社会的課題を的確に捉え「総合知」を創造し、未来社会を活力と魅力溢れるものとしてデザイン・構想できる共創型人材を育成することを目的とする。

### 教育目的

現代の社会課題は、環境やエネルギーをめぐる地球規模の課題から、人口減少・少子高齢化をめぐる日本の課題に至るまで、問題が多様化・複雑化しており、一つの専門分野の専門知のみによっては解決できず、多様な専門知を活用し、問題解決することが求められている。

グローバル共創科学部は、地球規模の課題から地域社会の課題に至るまで、社会的課題が複雑多様化する現代社会の状況を踏まえ、多様な人々と協働した取り組みの下、人文・社会科学から自然科学に至る広汎な知をつなぐことで、複眼的な視点から社会的課題を捉え、「総合知」を創造・活用し、未来社会を活力と魅力溢れるものとして構想できる「共創型人材」を育成することを教育の目的とする。

### 研究目的

静岡大学は、中期目標において、研究に関する基本的目標として、「多様な研究を通して地域社会の発展に貢献するとともに、研究上の特色と強みを一層発展させ、世界的研究拠点の形成に向けた取組を進める」ことを掲げている。

グローバル共創科学部は、本学の基本的目標を踏まえ、社会的課題が複雑多様化する現代社会の状況を踏まえ、人文・社会科学から自然科学に至る広汎な知をつなぎ、「総合知」を創造・活用し、多様な人々と協働することで、地球規模の課題から地域社会の課題を共創的に解決することを基本方針として、以下の成果の創出を研究目的とする。

- （1）現代に生きる人々が、より創造的かつ友好的に暮らすための課題解決
- （2）新たな価値を創生し、持続可能な循環型社会を実現するための技術・政策
- （3）人間はどう在るべきかを問い続け、真の豊かさを主体的に実現するための課題解決